

未来につなぐ杉戸のコト / スギトゴト

Sugito goto

Vol. 1
December 2015
[創刊]

平成28年 杉戸宿開宿400年

【特集】

杉戸宿の町並みをつくった大工たち
インタビュー 木村三樹男 さん

■ スギトゴト散策マップ
「宿場まちあるき篇」

スギトゴト Vol.1(創刊号) 2015年12月1日発行
発行：杉戸町観光協会 0480(32)3719
企画：ふるる杉戸のまちづくり
編集：デザイン/川島有美子 Sumiko Iwano
取材・執筆：大吉さおり
撮影：小塚照英

2015 12/6 (日)



日光街道 杉戸宿宿場まつり 2015
平成27年12月6日 9:30-15:00

すきとじゅくしゅくば
▶ 第1回 杉戸宿宿場まつり

■ 杉戸町第1回目となる宿場まつりが開催!!
日 時 ▶ 12月6日(日) 9時30分～15時00分
場 所 ▶ 杉戸4丁目付近(本陣跡地前交差点・愛宕神社前交差点)
内 容 ▶ 宿場町人行列・ステージ演奏・商工物産市・フリマなど
問合せ ▶ 杉戸町商工会 ☎0480(32)3719
▶ 商工観光課 ☎0480(33)1111



2015 12/13 (日)



しあわせすぎマルシェ
12/13(日) 10:00-14:00

▶ しあわせすぎマルシェ

■ 「月3万円ビジネス」ブースが参戦!
杉戸町創業支援事業の一環として、9月から実施されていた「わたしたちの月3万円ビジネス」。自分のワクワクから月3万円稼働の仕事づくりのアクションを起こしています。今回、杉戸で講座を受講した9名のエネルギーあふれる女子たちが、マルシェでビジネスデビュー! 女子ならではの目線で見み出した、オリジナルショップをぜひ応援してください!

日 時 ▶ 12月13日(日) 10時00分～14時00分
場 所 ▶ 杉戸町清地1丁目9-18

クリスマスレードも開催
▼ 問合せ・詳細はホームページから
<http://shiwasesugi.wix.com/2014>

2016 1/24 (日)



杉戸町新春マラソン大会
1月24日(日) 10:00-14:00

杉戸宿開宿400年記念
▶ 第32回 杉戸町新春マラソン大会

日 時 ▶ 平成28年1月24日(日)【雨天決行】
開 会 式 : 午前8時35分～
競 技 開 始 : 午前9時00分～

会 場 ▶ 杉戸小学校
コ ー ス ▶ 杉戸小学校周辺道路
招 待 選 手 ▶ NHK気象キャスター 平井信行さん・井田寛子さん
関 合 せ ▶ 杉戸町教育委員会 社会教育課 ☎0480(33)1111



■ 表紙の写真 ■

杉戸町の元・大工棟梁、木村三樹男さんが見せてくれた大工道具たち。道具は引き継ぐものではなく、自分に合ったものを一つ一つ見つけていくものだそう。右の上のかんなは、道具の大切さを体で学ばせるために、先代があえて歯切れの悪いものを持たせたという、三樹男さんにとって原点の品。

■ スギトゴトとは ■

『スギトゴト』は、「杉戸宿開宿400年プロジェクト」の一環として、杉戸開宿400年の節目を記念し、創刊されることとなりました。何気なく通りすぎている宿場町の景色に息づく物語、暮らしてきた人の思い。現在進行形で生まれているワクワクするような出来事たち。本誌は日常に存在する素朴な杉戸ゴトを紹介する小さな情報誌です。杉戸ゴトが町に暮らすみなさん一人ひとりの自分ゴトとつながって、未来の新しい「スギトゴト」を生み出していきつづけていきたい、そんな思いで発信していきます。本プロジェクトにご協力を頂いた多くの方々へ心からお礼を申し上げます。

■ 杉戸町へのアクセス ■



特集 杉戸宿の町並みをつくった大工たち

「古けりやいってでもんじやない」

江戸幕府が日光街道に宿駅を設置して、今年でちょうど四百年。日本橋から数えて五番目の宿場町が杉戸宿です。杉戸で代々大工業を営んできた元棟梁の木村三樹男さんを訪ねると、先代から受け継いだという印半纏を並べて迎えてくれました。町の景観をつくる大工とはどんなお仕事なのか? 杉戸宿の名残とは? これからの町づくりはどうしたらいい? たくさんのお質問に、じっくり答えてくださいました。

文/大吉さおり
写真/小塚照英

洒落が利いた職人の世界

「俺はね、大工になる気はなかったの」
元・大工棟梁である木村三樹男さんは、開口一番そう言った。大学に進学するか大工を継ぐかで、父親とケンカになったこともあるという。

「二階の屋根から逃げ出したこともあったよ。ついには布団かぶって寝たふりしたね」
これには父親も親念したらしい。枕元に座り、こう言った。「わかった、自分の好きな人生を選べ。だけど、この仕事を受け継いで、次の世代に伝えていく責任はお前にもあるかもしねえぞ」

このとき、三樹男さんのなかで何が動いた。あれほど嫌がっていたのに、18歳で大工の道を選んだのだ。現場に入れば、親方と見

「若い人の力」がもつと必要

「杉戸宿の建物を手がけたといっても、何代も前のことだもの、細かいことはわからないね。ただ、昔は機械なんてなかったから、一枚つくるのだったって手作業だよ。ものすごい手間と技術が詰まってるんだ」
例えば、大工道具。三樹男さんがかんなを見せると

「かんなには普通、木材を削る刃と逆目をおさえる刃があるもんだが、これは刃が一枚しかない。かんなが一枚削るの感覚を手で調整するのよ。これを扱える大工はもういないだろうね」
あるいは、角材。丸太を切り出し、角を落として、一年乾燥させて、墨をつけて。この工程を三年繰り返すと、時間が経っても歪ま

ない角材ができる。角材を用意するのに三年である。長く残る家というのは、そもそもこうした造りが違う。ただ、古ければいいとも限らないぞう。
「古くたって、残すべきものは残して、みっともないものは早く壊した方がいいと思うね」
最後に、杉戸の町づくりについて、思うところを聞いてみた。

「みんなが未来の町の姿をちゃんと描かないといけないね。新しいものは新しい発想ができる若い人たちに任せて、年長者は昔の話を憶劫がらずに伝えていくこと。新旧それぞれ世代が、お互いに認め合わなくちゃあ、いい町にはならないんじゃないかな」



作業のひな形(手本)を示した、大工にとっての教科書。 先代の道具たち。実は一つ一つが微細に異なる。 大工になって初めてもらった「かんな」は思い出の一品。 印半纏の背中には、祖父・彦次郎さんの「彦」の文字が。

木村 三樹男 (きむら・みきお) さん
昭和22年生まれ。元・大工棟梁。平成26年2月から街デザイン・ラボラトリー事務局長を、同年4月には杉戸町第15-1区の区長を務めるなど、杉戸の町づくりに貢献。